

か。またある時は裏庭にガレージを作るため朝早くから仕事をしているジョンさんに代わってベティさんが聖書の "Nature" を読んでくださる。これは私が自然が好きで山歩きが趣味だと話したので、この章を選んでくださったのである。聖書の朗読を一生懸命聞いているとやはり Jesus、God、Lord、Father、Children という言葉が頻繁に出てくる。内容は自分は何のために生きているのかを自らに問いかけ意義あることに生を捧げるようにとか謙虚に生活しまわりの人々や自然に目を向け自分のやるべきことをしなさいというメッセージが伝わってくる。聖書の朗読の後、今日の食事への感謝と私たち2人への言葉も必ずあり、そしてお祈りへと続く。最後は「アーメン」で終る時がほとんどであったが1度4人で手をつないで祈る場面もあった。滞在中、すべての食事はこのようにして行なわれた。朗読する聖書の内容もその時々で適するものを選び、家族やそこに加わった人それぞれへのメッセージもあり、食事への感謝もある。日々の生活や食事や家族を大切にする気持ちがここに受け継がれている気がした。「いただきます」さえもおろそかにしがちな自分を反省した。

3 なぜ宣教師になったのか

ミネソタに滞在中、お世話になったホームステイ先の方々を招いてパーティーが開かれた。パーティーもたけなわの最中、思い切ってジョンさんになぜ宣教師になったのかと聞いてみた。その話は私にこんな奇跡のようなことも起こるのかという気持ちにさせた。とても興味深く帰宅してからもジョンさんに話の続きをお願いした。

ジョンさんは18才の時、大学で理系のエンジニアの勉強をしていたが、どうも自分にはこれがあっていないと感じていた。勉強もうまくいっていないし、これでいいのかと悩んで彼は神に祈った。その祈りは真剣だった。そして彼は神の声を聞いた。神は宣教師になりなさいと告げた。その時から今までの勉強をすべてやめて、宣教師 (missionary) になる勉強を始めた。必死に勉強して宣教師になるための面接試験を受けた。ニューヨークから来た試験官との面接はうまくいかなかった。ジョンさんは内気な性格で、その時とても緊張していたためうまく話せなかったという。後日受け取った結果は不合格。宣教師になるには言葉がうまく話せるということが重要だが、それができないからというのが不合格の理由であった。ショックを受けた彼はその夜、不合格の通知をベッドの枕の下に入れて一生懸命神に祈った。宣教師になるための扉を開けてくださいと。祈っていたらイエスの顔が目の前に現れた。イエスは faith (信念) を持ってやりなさいと言われた。翌日から人が変わった。とても内気で人前で話すこともできなかった彼が雄弁になり、活動的になり学生自治会の会長になってしまったという。内気さはどこかへ行ってしまったのだ。彼の人生はある日突然変わってしまった。奇跡のような話のもう一つの例はインドネシアのでき事。ずっと雨が降らなくて部族の人々が困っていた。ジョンさんは一生懸命神に祈っていた。そして目を開けたらなんと雨が降っていた。本当にうれしそうに、まるで目の前に雨が降っているのを今見ているように話される。このような話を書くと、つい大袈裟だとか夢でも見ていたのでは言われるのではないかと危惧する。しかしジョンさんの誠実さと人柄の良さはそんな憶測を吹き飛ばしてしまう。

"If you have faith in God, miracle happens everywhere."

(神を信じれば、奇跡はどこにでも起こる。)

ジョンさんは話の最後をこの言葉で締めくくった。とても力強く響いた。

4 なぜニューギニアか

ベティさんが独身の頃、当時はオランダ領であったインドネシアへ出かけた。部族の人々に文字を教える教師 (literacy teacher) としてであった。別れの時、部族の人々は行かないでくれと言った。そして彼らは今度来るときは男の人を連れてくるようにと彼女